

座談会等での意見について

1-1. 座談会での主な意見(独身者)

【住まい・生活】

- ・実家 ・職場の近く ・職場も遊び場も利便性が良いところ ・地元が友達もいて居心地が良い ・都会が良い
- ・ブラブラ歩ける場所や若い人向けの施設が欲しい ・荒尾含め周辺地域は似たり寄ったり ・駅前が寂れている
- ・教育のことを考えると久留米や福岡が良い ・地域との関係性が深すぎると嫌だ ・夜道が暗いので街灯が欲しい
- ・小さい頃から地域の人とのつながりを深めておくとする将来的に住もうと思う人が増えるのではないか
- ・電車・バスの本数が少ない ・光熱費などの生活にかかるお金の負担が減るような支援があると嬉しい
- ・駅が利用しにくい ・運動公園の弓道場が屋外であることで練習しにくい ・市内高校の選択肢が少ない
- ・高校や大学に行くにも電車を使うから、定期代の補助があれば ・家族やカップルで食事を楽しめるような飲食店がほしい
- ・デートスポットになるような場所がほしい ・駐車場付きの公園がほしい

【出会い・結婚】

- ・結婚しなくても何も困らない ・若い人が気軽に出会える場が欲しい(ドッグランや趣味を通じて)
- ・身内からのプレッシャー ・お金が足りなくて結婚に踏み切れない ・いつかは結婚したい ・結婚のイメージがない
- ・しないならしなくてもいい ・結婚したいが相手がおらず出会いがない ・結婚したい(〇歳ぐらいまで、〇代のうちに)

【子ども・子育て】

- ・子育てのイメージが湧かない ・若くて家を持ちたい人に家をあげる等大胆な取組が必要 ・国に制度改正の要望を行う
- ・身近な人からは子育ての楽しい話を聞くことが多い ・習い事の送迎が大変そう ・結婚はしなくても子どもはほしい
- ・20代のうちに産みたい ・子どもは欲しいけど仕事しながらだと両立が難しそう
- ・仕事も奨学金の返済もあって、すぐに子どもとはならない ・子持ちの友達の話聞いて経済的にも大変そうだった
- ・女性の家事育児の負担を減らせるようにできれば ・单身でも家族でも住めるところがあれば(建売など)
- ・物価が上がってきているので、将来子どもができたときに余裕のある暮らしができるのか不安

座談会等で出た意見について

1-2. 座談会での主な意見(既婚者)

【住まい・生活】

- ・実家の近く ・職場の近く ・今住んでいるところに住み続ける ・退職後は都会に移住したい ・一軒家の賃貸がなかなかない
- ・近所の関係性が良いから出なくていい ・行政協力員が親切だった ・荒尾駅・南荒尾駅周辺の開発、整備
- ・若い人がリノベもしていない空家バンクに住みたいと思うのか ・若い人向けのマンションが少ない
- ・空家のリノベは地元建設業者と連携するとおしゃれな住宅ができるのでは ・教育のことを考えると荒尾に住む選択肢はない
- ・歩いて楽しめる散歩コースがある ・地域に見守りの方がいる ・高校をどこにやりたいか基準で選ぶ

【妊娠中・産前産後】

- ・双子の産後ケアの充実 ・学校の先生は人数不足で育休さえ取れない状況のため子どもをつくれぬ
- ・母子手帳をもらったあとの妊婦のケアの充実 ・妊婦の交流の場づくり ・陣痛タクシー

【子育て】

- ・荒尾市は子育て環境として他自治体と比べて劣ってはいない ・フレックス制度の実現希望 ・送迎の問題
- ・自分の体調が悪い時に頼れる人がいない ・ファミサポの登録方法のデジタル化、制度の分かりにくさ、活用事例教えてほしい
- ・0-2歳の保育料が高い ・日曜も預けられる保育所の開設 ・費用面や送迎でクラブチームに入れられない
- ・高校への通学が不便 ・保育園で子どもの熱が出たとき、病児保育まで送ってくれたら助かった ・屋内プール欲しかった
- ・遊具がたくさんある公園が欲しかった ・職場に託児所が欲しかった ・学習塾がない ・給付系は現金じゃなく現物支給で
- ・親並みの育児のサポートが受けられると良い ・家庭によって習い事の格差を感じる ・リフレッシュクーポン欲しい
- ・突発的な預かりと迎えができれば良い ・荒尾市で子育てした場合の総額の試算を示しては ・荒尾で高校まで完結できれば
- ・下校後から親が帰宅するまでの居場所づくり ・お金も頼れる人もいないと子育ては難しい ・学童料金が高い
- ・周囲(地域)の人も含めて子育てをやっていければ ・学校での男女平等についての教育 ・税金の勉強を義務教育に盛り込む
- ・子どもを遊ばせて大人は見えるところでカフェ ・ライフプランニングしてほしい ・ライフプランを立てる教育
- ・買い物に行きたいときに行けない ・保育園や小児科などの情報をどうやって入手したらいいかわからない
- ・家族で行けるような定期的なイベント ・子どもを連れて買い物に行くのが大変(特に粉ミルク、おむつ、おしりふき)
- ・実家のサポートがなければ3人も育てることはできなかった ・雨の日でも安心して出かけられる環境づくり
- ・周囲からの悪気のない発言によるモヤモヤ ・職場の育休が取りにくい雰囲気改善してほしい
- ・無償化しなくてもライフステージごとに長く支援してもらえれば良い

【子ども数】

- ・男3人だから女の子欲しかった ・同性の子が欲しかったから ・年齢次第 ・お金次第 ・1人でも大変だから体力次第
- ・子育てしてみて大変さを痛感したから1人でもいい ・欲しい人はお金がなくても産む

座談会等で出た意見について

2. 転出した若年世代へのアンケート結果

◎若年世代の転出抑制やUターン可能性の調査を目的に、職員のお子さんで進学・就職等を機に市外へ転出された方に、荒尾市を出た理由や戻ってくる可能性等について調査

◎主に職員のお子さん32人から回答

- ・回答者は全て20歳～25歳。
- ・転出して1～3年が多く、他は4～6年。
- ・関東圏、関西圏、熊本市の企業に務めている人が多い。
- ・市内の高校出身者は12%。
- ・荒尾市に愛着が「とてもある」「まあまあある」と答えた人は84%。そのうち「数年以内に戻る予定」「いずれは戻りたい」と答えた人は59%。「戻りたいけど戻れない」と答えた人は22%。
戻りたい理由としては、親（家族）がいるから。地元の友達が多い。環境がとてもいい。発展してきているという話を聞いているから。荒尾市が好きな気持ちがあるから。適度に田舎だから。荒尾市を盛り上げたい。
戻れない理由としては、就職先がないから。職の関係で戻れない。勤務先から遠い。今の仕事は荒尾市ではできない。子育てするにおいて選択肢が少ない。
- ・結婚は81%が「したい」「したいけど不安がある」と思っている。「したいけど不安がある」と答えた人の理由としては、貯金がない。仕事と子育ての両立。経済的な不安。
- ・結婚したくないと答えた方の理由としては、1人が楽。
- ・子どもは84%が「欲しい」「できれば欲しい」と思っている。
- ・情報収集のツールについては、90%がInstagramを使用。次にツイッターが71%。テレビが28%。
- ・荒尾市の情報接触機会については、78%（25人）が「あんまりない」「まったくない」と答えている。